

教養コース 社会保障学

第2回

医療破壊のキーワードは

「医療亡国論」そしてその

ルーツは明治維新にあった

平成30年6月23日（土）10:00～12:00

講師：本田 宏氏（NPO 法人医療制度研究会副理事長）

参加者：34名

何故日本では国民の関心が高いはずの社会保障や教育崩壊が放置されてきたのか。目前の問題を解決するには「締め」ることをやめて、問題の本質を「明らめ」考えることが第一歩です。

- 1、 群盲象をなでるはダメ、全体像を肥握せよ
- 2、 グローバルスタンダードと比較する
- 3、 温故知新、歴史に学べ
- 4、 Follow the money、いったい誰が得をする



戦後医療費が年々増加するのに対し、厚生省の局長が「医療費に亡国論」を発表して、医療費の問題を提起した。

しかし、時の政治家は、医療費の問題については、あまり関心を示さなかった。

【温故知新：明治から続くクレプトラクシー（収奪・盗賊政治）】

- 1、 明治時代：渋沢栄一が指摘した官僚と経済人の問題

官尊民鬼一官僚の天下り

絶対官僚主義が明治政府にあった

政界と財界が時の政治を動かしていた

旧長州藩と薩摩藩の下級武士たちが主に活躍した

三菱・三井などの財閥が誕生

2、 明治時代：済生会設立縁記

明治天皇が、時の政界や経済界の現状を国民の幸せを願って済生会を誕生させた。

3、 明治時代：海外から日本はどうみられていたのか？キューバ ホセ・マルティ
政治的には、遅れていると見られていた。

4、 明治時代：日本人を いた日本人がいた

赤松小三郎：明治末期の兵学者、政治思想家

報告者 三上 聡雄